

## 第464回 番組審議会

1. 日 時 平成23年5月17日(火) 午後1時30分～

2. 開催場所 テレビ岩手 6階大会議室

3. 委員総数 11名

出席委員 8名

委員 長 清野 雅子

副委員 長 千葉 幸長

委員 森本 雅司

委員 望月 善次

委員 福田 泰司

委員 池田 克典

委員 吉江 信博

委員 平 英一

欠席委員 3名

委員 坂本 修

委員 柴田 和子

委員 鈴木 正之

社側出席者 矢後 勝洋(代表取締役社長)

石井 修平(専務取締役)

阿部 孝夫(常務取締役)

淵沢 行則(報道制作局長)

遠藤 隆(報道制作局次長)

石森 彰(営業部長)

事務局 山信田 寧(編成技術局長)

畠 義真(編成技術局編成部長)

平山 亜希子(編成技術局編成部主任)

4. 議 題

1. 04/24(日)24:50~25:45 NNNドキュメント' 11

それでも生きる 大震災…戻らない日々

2. その他ご覧になった番組についてのご意見

5. 資料

資料として以下のものを配布

- ・ 視聴者からのご意見

6. 意見

委員側意見

・今回ほど映像資料がしっかりと保存された災害はないとおもいます。30年後、50年後、100年後の津波に非常に大事な資料となってくると思いまして、使命感を感じた。

・番組では立場がいろいろな人が出ていて、バランスが取れているというか、いろいろな方が被災されて、それぞれいろいろな人生があるんだということを視聴者に知らしめるという役割があった。

・さまざまな困難がある中で、今回このかたがたが選ばれた意図というのはどんなものだったのか。

・今回の地震津波は想定外といわれるが、貞観大震災の記録に並ぶ大震災なので、やはり記録の大切さ、またメディアが語り継いでいくということをお願いしたい。

・防災センターで被災した人がいることや原発の問題は、人災的なところを指摘しておこうという意図が見えた。また救済側でありながら被災者となった公務員や、原発で地域が恩恵を受ける、受けないという差があるなどの課題、人物の選び方の問題も含めて奥行き深いものだった。

・これからは復興への展望、希望に向かう報道になってくると思いますが、みんなに力を与える番組を作ってほしい。

・津波の記憶が薄れてきていたもの確かで、今回の惨禍、悲惨な状況をあとに残すのも大切で、そういうことで放送の価値や意味があるのではないかと。

こぼれてくる話それぞれの言葉がテーマになる内容を拾っていたと思う。

・釜石の例では世界一の防波堤が防災意識を薄めてしまったのではと思い、防災上限界があることを感じた。

・間に入るCMだが、番組内容との乖離があったので、もしできれば落ち着いた内容のほうが良いと思った。

・医療チームもどんどん撤退していて、このままだと医療チームがいなくなる場所も出てくると聞いている。医療の問題、心のケアの問題などそのときそのときで取材し伝えてほしい。

・居住地から離れた人たちが、差別や余計な苦勞をしていることもあるようなので、それをフォローして国民に知らせてほしい。

テレビ岩手側意見

・今回は釜石の津波の映像に流されて助かった女性がいたので、その方を見つけだして取材したのと、防災センターは新聞から情報を得て人を探して取材したというもので、たまたま出会えた方を組みなおしたもの。

・CMのあり方だが、現状は空いた枠にCMをいれており、違和感を持たれる内容になってしまった。内容を想定したCMを入れるのが必要と思う。

・津波災害の1600本の映像集積は史上初めて。直後のインタビューなどもう1回チェックが必要で、地元メディアの役割として残すべき。時間がかかってもいいので将来のこすための番組にすべきと考える。

## 7. 審議内容

別載のとおり

## 8. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

特記事項はないが、関連部署に議事録を配布するなど関係者に審議の内容を伝えた。

## 9. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日

・自社制作番組「あなたと歩むテレビ岩手」

平成23年5月24日(火)午前11時45分～11時52分放送)で、審議の概要を放送。

・支社・支局に議事録を設置

・当社のインターネットのホームページで議事録を公開